

平成二十八年度 書道講演会

三体千字文から得た勉強方法

― 楷・行・草から定義を発見 ―

連盟副会長 村上史麗

▼日時 平成二十九年二月五日（日）

▼会場 一宮スポーツ文化センター

▼講師 伊藤昌石 先生

支部集會に引き続き、恒例の支部書道講演會を開催いたしました。

講師には中部日本書道會理事長・日展會友の伊藤昌石先生をお迎えして、「三体千字文から得た勉強方法」と題し一時間半の講演をお願いしました。

千字文はその名のように一千字の異なった文字による「天地玄黄。宇宙洪荒」から「謂語助者。焉哉乎也」までの四言二百五十句の詩であり、一字の重複もなくみごとな韻で歌ったものであります。王羲之の書き残した字体を学ぶために作られたものであるので、続々と諸名家が筆をとり現在に残る名蹟も多いことから、書を習う私達にとっては日頃手に取

る法帖が千字文であるという方は少なくないと思います。

その千字文を先生が長年ご研究されました、楷・行・草の漢字の法則を熱心に解説いただきました。楷書では横画は平行ですが行書はバラバラになると、楷書は中心と重心が同じですが行書は異なること等々私達が何となく感じていた事を定義として教えていただきました。

お父様の伊藤昌石先生が書かれた千字文の一部も資料として準備され拝見することが出来、大変勉強になりました。先生の薄墨から表現される線の強さと空間美の素晴らしい作品はこのような綿密な思考の末に誕生し進化しているのだと感じました。

聴講者 一五二名
(一般聴講者十四名)

